

再評価調書（再々評価）

事業名	茶屋川水系 飯ノ峯川 通常砂防事業				
所在地	泉南市 箱作				
再々評価理由	再評価後5年を経過した時点で継続中				
事業概要	目的	都市に直接的に土砂災害を及ぼす恐れのある溪流について、砂防設備の整備を促進し、土石流等の土砂災害に備える。			
	内容	溪流保全工 護岸工 L = 250m			
	事業費	全体事業費 計画約 13.3億円 投資事業費約 12.7億円 内用地費 計画約 6.6億円 内用地費約 6.6億円 (土地単価約22.2万円/㎡) 内工事費 計画約 6.7億円 内工事費約 6.1億円 (工事単価約284.0万円/m) 再評価時点における事業費 約 13.3億円			
	維持管理費				
	上位計画	大阪府都市基盤中期整備計画(案)			
	関連事業				
事業の進捗状況	経過	計画時の想定	再評価時点	現時点	分析 新設橋梁架設に伴う関係機関との調整に当初想定以上の日数を要した。
		事業採択年度 S63	S63年	S63年	
		事業着手年度 S63 完成予定年度 H4	S63年 H11年	S63年 H15年	
	進捗状況	用地 - % 工事 - %	用地 100 % 工事 80 %	用地 100 % 工事 91 %	
途中段階の整備効果発現状況	護岸整備により河道の安定を図り、出水時における氾濫を防止し、保全対象の安全を確保する。				
事業進捗に関する課題					

事業を巡る社会情勢の変化	事業目的に関する諸状況	計画時の想定	再評価時点での状況	現時点での状況	分析
		渓床には不安定土砂が多く堆積しており、洪水時に多量の土砂が流出するおそれがある。	同左	同左	諸状況に変化なし。
事業を巡る社会情勢の変化	地元等の協力体制	計画時の想定	再評価時点での状況	現時点での状況	分析
		防災事業として認識されており、事業に対する協力を全面的に得ている。	同左	同左	地元等の協力体制に変化なし。

		計画時の想定		備考	再評価時点での状況	現時点での状況（変更点）	分析
事業効果の定量的分析	費用便益分析	計画時点では費用便益分析の手法が確立されておらず、算出できず。			費用便益分析は行なっていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ B / C = 1 . 8 8 便益総額 B = 9 0 . 8 億円 総費用 C = 4 8 . 2 億円 具体的な便益内容 ・ 人命、財産の保護 受益者 地域住民、府民 算出根拠 国土交通省河川局河川計画課監修 「治水経済調査マニュアル」 国土交通省河川局砂防部（H15） 「土石流対策事業の費用便益分析マニュアル」 	砂防事業による十分な費用対効果が期待できる。
	その他の指標（代替指標）						
事業効果の定性的分析	安全・安心	土砂災害による被害の軽減が図れる。		・ 受益者など 地域住民	変更点特になし	変更点特になし	工事進捗どおり、土砂災害による被害の軽減が図れている。
	活力						
	快適性						
	その他						
自然環境等への影響と対策							
その他特記すべき事項		前回再評価時の意見具申・府の対応方針の概要 （意見具申） （府の対応方針） 事業継続	今回再評価時点の反映状況				